

化学物質リスク総合管理技術研究イニシアティブの推進目標

項目	今後5年間で達成すべき目標	中・長期的目標	
化学物質リスク総合管理技術研究イニシアティブの全体達成目標	次世代影響などの有害性およびPRTR対象物質等リスク管理の必要性・緊急性が高いと予想される化学物質を中心として、「安全・安心」を確保するための化学物質総合管理の基盤を構築する。	化学物質のリスクの検出、評価、極小化技術、管理の各側面の高度化により予防原則の合理的実施のためのリスク評価及びリスク管理のために最適の技術・社会システムを構築する。	
プログラム毎の目標	リスク評価システム開発プログラム	微量化学物質等の革新的計測技術の開発、発生源解明と排出量把握手法、および新たな環境動態モデリング技術を開発する。これらに基づき、暴露可能性が高いと予想される物質について暴露評価(人、生態系、家畜及び水生生物への)が可能なシステムを構築し、効率的かつ予防的な評価の基盤を構築する。さらに化学物質による人や生態系における新規の有害性、ならびに次世代における異常を検出・評価するため、トキシコジェノミクスをはじめとする革新的システムの開発など、環境有害性評価技術の高度化を実現する。これらの暴露評価及び環境有害性評価を踏まえて、リスク削減の優先度判定が可能な形で体系化し、予防的かつ効率的なリスク評価を行う総合化技術を開発する。	開発された化学物質の革新的計測技術、環境動態モデリング技術、環境有害性評価技術等に基づき、各種の系に対して効率的に暴露予測と監視を行うシステム並びに人及び生態系への環境有害性評価システムを確立する。これにより確かなリスク極小化の方向を提示し、予防原則の合理的実施を可能とするリスク評価システムを確立する。
	リスク削減技術開発プログラム	全産業で使用されている化学物質の生産、使用等主要プロセス及び消費者用製品において、排出削減技術や革新的な環境調和型生産技術体系の確立、並びに「20世紀の環境分野における負の遺産」を次世代につたえないために、POPs	全体として最適な形で化学物質のリスクを極小化する技術の開発を行う。

項目		今後5年間で達成すべき目標	中・長期的目標
プログラム毎の目標		対象化学物質を含む土壌・地下水・底質等の環境汚染の修復・無害化処理のための基盤技術を確立する。	
	リスク管理のための社会システム的手法構築プログラム	化学物質に係る科学的知見の体系化等化学物質総合管理支援情報システムを構築し、化学物質のリスクについてモデル等の科学的手法データに基づいた検討を可能とする。また、環境リスク管理のための政策的手法やリスクコミュニケーションのための知識の体系化など社会的・政策的リスク管理手法の開発を行う。	リスクに応じ、最適な管理政策を選択するため、リスク管理のために最適の情報システムや社会システム体系を構築する。
	知的基盤構築プログラム	科学的知見の進展に応じ、新たなリスクが判明するという化学物質問題の特性を踏まえ、将来の「安全・安心」のため、取得した試料の保存体制を整備し、世界に発信しうるスペシメン・バンキングシステムを構築する。	継続的な環境試料の収集、標準試料の作成とシステムの運用を行う。

# 化学物質リスク総合管理技術研究

化学物質のリスクと利益の総合的な評価及び、管理のための手法並びに化学物質のリスク削減極小化技術開発を行う

